

【八代市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年1月に中央教育審議会から出された「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、これからの「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために、ICTの活用は必要不可欠であると述べられており、各学校に整備したICT環境をどのように有効活用していくかが重要となっている。

本市においては、ICTの有効活用により本市の主な教育課題である「学力向上」および「不登校対策」の解決を図るとともに、変化が激しい予測困難な時代を生きていく子供たちにとって必要不可欠な「情報活用能力」を育成するための学びを充実させ、「学びの変革によるやっしろの子供たち一人一人の「生きる力」の育成」の実現を目指している。

2. GIGA第1期（～令和5年度まで）の総括

本市はこれまで、令和2年度中に児童生徒の1人1台タブレット端末及び校内LAN環境等を整備し、周辺機器等も含めたICT環境の整備が完了している。さらに、ネットワークについては、ネットワークアセスメントを実施して不具合の原因を逐次明らかにし、ネットワーク環境改善に向けた対応を行ってきた。

また、各学校に整備したICT環境を有効活用していくための方針として、令和4年3月に『八代市EdTech（※）推進基本方針』を策定するとともに、基本方針に基づいて、具体的にどう取り組んでいくかを示した『八代市EdTech推進基本計画』を策定し、令和4年度以降は、目標としている「学びの変革によるやっしろの子供たち一人一人の『生きる力』の育成」のための取組を実施してきた。

しかし、一方で、授業におけるICT活用や校務DXの推進状況については、学校間での取組の差が生じてきている。

そこで、教員のICT活用指導力のさらなる向上を目指し、全ての学校が授業や校務において積極的にICTの活用を図ることができるよう、これまでの研修等の取組を更に充実させる。

さらに、先進的にICTを活用している学校の取組や校務DXの改善について学び合う機会を活用し、児童生徒の発達段階に応じた効果的なICT活用の在り方について研究を深め、本市が抱える課題解決につなげていく。

※EdTechとは、Education（エデュケーション）とTechnology（テクノロジー）を組み合わせた造語であり、教育分野にテクノロジーの力を入れることで変革をもたらすことの意味

3. 1人1台端末の利活用方策

本市では、令和6年度から8年度に端末の更新を計画しており、更新にあたり各学校及び関係課が情報共有を図りながら更新作業を進めていく予定である。より効率的な運用が期待できるOSの選定を行う等、ICT環境の充実を図りつつ以下の方策で1人1台端

末の効果的な利活用を推進する。

(1) 1人1台端末の積極的な活用のために

学校に対し、これまでも授業や校務におけるICT活用に関する研修を実施している。今後は、教育委員会指導主事が各学校の個別課題に応じた研修を実施するとともに、端末の積極的な活用に関する指導助言を行う。

また、ICT授業サポーターの配置を継続し、引き続き学校への支援を行う。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実のために

児童生徒が1人1台端末を活用し、「自分で調べ、自分の考えをまとめ、発表・表現する授業」「お互いに学び合いのある授業」を展開することができるよう、具体的な活用事例など、積極的な情報提供を行う。

(3) 全ての児童生徒への学びの保障のために

不登校の児童生徒、障がいのある児童生徒等、特別な支援を要する児童生徒に対して、学習支援ツール等のICTを活用することで学びの場を提供し、学習機会を確保していく。